

総会第1号議案

令和3年度

事 業 報 告 (案)
財 務 諸 表 (案)

(令和3年1月1日～令和3年12月31日まで)

公益社団法人競走馬育成協会

総会第1号議案

令和3年度

事 業 報 告 (案)

(令和3年1月1日～令和3年12月31日まで)

公益社団法人競走馬育成協会

総会第1号議案

令和3年度 事業報告（案）

公益社団法人競走馬育成協会

概況

令和3年度も令和2年度と同様に新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年であったが、中央競馬は入場制限という環境下ではあったものの競馬開催を間断なく継続することができた。コントレイルの鮮やかなラストラン、ソダシというアイドルホース登場、ラヴズオンリーユーが世界を震撼させ、エフフォーリア号が有馬記念で世代交代を宣言するといったようにスターホースたちが多数活躍し、最終的な売得金は対前年比103.6%、10年連続で増加という良好な成績を継続した。

令和3年度の2歳トレーニングセールについては、九州が上場頭数の不足により休止となつたが、千葉はオンラインオークションで再開、北海道とJRAブリーズアップセールは通常セリにオンラインビッドを加えたハイブリッド方式での開催となつた。

このような情勢の中、当協会においては、新型コロナウイルスの影響から年度当初に予定していた各施策について、実施と中止をぎりぎりで判断する難しい一年となつた。

育成技術講習会については、東北と九州での開催は少人数で催行できたものの、その他の開催は見送らざるを得なかつた。これら開催できなかつた講習会の代替として、生産育成技術に関する講習動画の協会ホームページへの掲載、および日本中央競馬会（以下「JRA」と表記）主催のオンラインセミナーへの参加取次ぎ等を実施した。

就業者参入促進事業（BOKUJOB）では、コロナ渦以前に実施してきた対面型イベントについて、上半期に予定していた見学会やフェア等は取り止めざるを得なかつたが、感染防止を徹底し参加人員を縮小したうえで「夏休み牧場で働く体験会」を再開し、「研修コース体験入学会」は継続できた。一方で令和2年度から新たに実施した「Web相談会」を通年で実施したのに加え、その拡大版として短期集中型の「Webフェア」を開催した。

競走馬育成技術表彰では、会員育成馬の勝利数との該当率が年々高水準を維持しており、会員牧場の育成技術の確かさが示されているが、競馬場での表彰式については全ての競走で実施できなかつた。

その他にも、修学奨励金交付、競馬関連機材の有効活用、利子補給、情報誌発行等の広範囲の事業を展開した。

1. 軽種馬の育成調教技術の向上に関する普及、啓発及び指導

1) 育成技術講習会の開催（公益事業）

例年、軽種馬の生産、育成、調教に関する知識習得と技術向上を目的とし、当協会の5地区にてJRA及び公益財団法人軽種馬育成調教センター（以下「BTC」と表記）との連携・共催による講習会を開催し、会員のみならず一般からの参加も得ている。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から全ての講習会の開催を見合せたが、令和

3年度についても一部の地区での開催を見合わせることとなった。東北や九州地区での講習会は、参加者数が少人数であるために感染拡大のリスクが低く、感染防止に十分配慮することで安全を確保できるとの判断から開催が実現したが、その他3地区においてはこの限りではなかった。これら開催を中止した地区的講習会については、代替として協会ホームページへの生産育成技術に関する講習動画の掲載、およびJRA主催のオンラインセミナーへの参加取次ぎ等を実施した。

2) 競走馬育成調教技術表彰事業（共益事業）

競走馬の育成調教の技術向上を図り、育成調教者の基盤強化及び意欲増進を図るため、優秀な競走成績を収めた競走馬の育成調教者に対する表彰を実施した。

表彰対象 557 競走のうち 353 競走において会員の育成馬が優勝し、これらについての表彰を実施した。該当競走の中では、特に2歳新馬競走の該当率は81.3%、2歳重賞・リストップ競走は95.0%の高水準維持しており、対象競走全体でも会員の該当率は63.4%の高水準であった。このような結果は各会員の努力の成果であり、当協会会員育成牧場を経由することで新馬戦や重賞競走での勝率が高まるものと言い替えることもできる。

	表彰対象 競走数	前年比	会員優勝馬 表彰該当数	前年比	該当率	前年比
3歳新馬競走	45	-11	34	-10	75.6%	-3.0P
2歳新馬競走	252	+5	205	+14	81.3%	+4.0P
2歳重賞 ・リストップ競走	20	±0	19	+3	95.0%	+15.0P
3歳以上重賞 ・リストップ競走	177	±0	75	+5	42.4%	+2.8P
障害重賞競走	10	±0	0	±0	0.0%	±0.0P
上記以外の 平地オープン競走 (2・3歳限定を除く)	53	+11	20	+9	37.7%	+11.5P
計	557	+5	353	+21	63.4%	+3.2P

また、例年、競馬施行場で育成協会会長賞表彰を実施している重賞2歳ステークス競走6競走（札幌・函館・新潟・小倉・京王杯・デイリー杯）では、その全てで当協会会員の育成馬が優勝し、2歳重賞競走における会員の高い表彰該当率を裏付けた。しかし、令和3年度も前年度に統いて、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から競馬場での表彰式を実施できなかった。

2. 軽種馬の育成調教に関する調査及び研究（公益事業）

軽種馬の育成調教技術の向上と牧場環境の改善を図るため、新入会の牧場について実態、人材、施設等に関する調査を実施しデータを蓄積した。一方、過去に実施した牧場経営等に関する調査報告については、引き続き当協会ホームページに掲載して情報発信している。

3. 軽種馬の育成調教に係わる人材の確保・養成に関する支援（公益事業）

1) 生産育成調教牧場への就業者参入促進事業（BOKUJOB）

軽種馬の生産育成調教分野で働く人材の確保を目的とし、多くの若者に生産育成調教の現場を紹介することによって就業者の参入を促進するため、当協会を中心にJRA・BTC・公益社団法人日本軽種馬協会（以下「JBBA」と表記）・一般社団法人日本競走馬協会の5団体で牧場就業促進事務局（BOKUJOB事務局）を構成して各種事業を展開している。

令和3年度も前年度に引き続き、上半期の対面型イベントである「BOKUJOB メインフェア」「BOKUJOB 関西フェア」「牧場見学会」については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施を見合わせた。一方で、感染防止を徹底し参加人員を縮小したうえで「夏休み牧場で働く体験会」を再開し、「研修コース体験入学会」は継続できた。

また、令和2年度から新たに実施した「Web相談会」を通年で実施したのに加え、その拡大版として短期集中型のWebフェアを開催した。

① 牧場就業促進ウェブサイトの運営と保守管理

BOKUJOBのウェブサイトは、平成22年にオープンし、令和元年11月に全面的にリニューアルした。コロナ禍で訪問者は増加、リニューアルの際にスマートフォンからのアプローチを重視したため、令和3年度も訪問者数のうち75%以上がスマートフォン利用者となっている。

	延べ訪問者数	新規訪問者数	新規訪問者数 スマートフォン内数	スマートフォン利用率
令和3年	274,561	186,256	140,402	75.4%
令和2年	203,603	136,393	107,416	78.8%
令和元年	138,613	84,618	64,592	76.3%
平成30年	115,610	69,355	50,279	72.5%
平成29年	133,912	81,357	54,151	66.6%
平成28年	148,923	88,473	54,641	61.8%
平成27年	160,488	87,994	51,302	58.3%
平成26年	157,194	54,585	28,722	52.6%

※ 平成30年は1~10月の旧サイトと11~12月の新サイトの合計

② サポートデスク

令和 3 年度は、JRA 関連施設でのサポートデスクを実施できなかったが、インターハイ馬術競技会場（静岡県）や日本学校農業クラブ全国大会（兵庫県）の会場にブースを開設し、BOKUJOB 活動の認知度向上のための広報や牧場業務に関する相談等を行った。

	開催日	来場者			
		令和 3 年	令和 2 年	令和元年	平成 30 年
御殿場インターハイ馬術会場	7 月 19～21 日	45		52	45
日本学校農業クラブ全国大会	10 月 26～27 日	176		8	10

※ 令和 2 年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施せず。

③ 夏休み牧場で働く体験会

全国公募で参加者を募り夏休み期間を利用して、牧場での就業体験・体験乗馬・BTC 研修体験学習・JBBA 研修見学・スタリオン見学等のカリキュラムを 5 泊 6 日で実施した。令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、止むを得ず実施を見合わせたが、令和 3 年度については、体験牧場数と参加者数を限定し、参加者全員に事前の PCR 検査を実施して陰性を確認、牧場での宿泊を取り止めて最寄りのホテルから牧場へ毎日通う形をとるという万全の感染防止対策を施して実施した。

- ・ 8 月 1 日～8 月 6 日 参加者 12 名
- ・ 体験受入牧場 杣臼牧場、谷口牧場浦河育成センター、笹島智則牧場、岡田牧場目名共同トレーニングセンター

④ 夏休み研修コース体験入学会

競走馬の牧場で働くことに興味がある者を全国公募して 7 月から 9 月の期間に実施した。令和 3 年度は前年度と同様 2 泊 3 日の日程で、1 回の参加人数を 10 名に限定して、時期の異なる 2 回に分け募集したが、応募者が多数であったことから、抽選に漏れた者を対象に急遽 1 泊 2 日の臨時日程を追加し計 3 回実施した。

研修見学・体験乗馬・厩舎作業に加えて、教官や研修生との交流、双方の施設や限定した関連施設の見学等をまとめて実施することで、BTC と JBBA の技術者養成研修への受験者獲得にもつながるような内容とした。研修機関と参加者の双方からはたいへん好評であった。

- ・ A 日程 7 月 28 日～30 日
- ・ B 日程 8 月 25 日～27 日
- ・ 臨時日程 9 月 8 日～9 日

⑤ Web 相談会、Web フェア

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対面式の相談会の実施が困難なため、

ビデオ会議ツール（Zoom）を使った個別面談形式の相談会を通年で実施した。

また、メインフェア・関西フェアの実施を取りやめた代替企画として、Web 相談会の拡大イベント「Web フェア」を企画し開催した。

(1) Web 相談会

令和 2 年度の後半から実施してきたビデオ会議ツール（Zoom）を使った個別面談形式の相談会を、個々の都合に合わせられるようにいつでも通年で実施できるようにした。また、各牧場に対して Web 上における操作や就業促進方法等をレクチャーすることも継続して実施した。

(2) Web フェア

Web 相談会をメインフェア・関西フェアのようにイベントとして集中的に広報展開することで、多数の面談を集約して実施できるよう「Web フェア」を企画し開催した。また、参加牧場の一部（11 牧場）および BOKUJOB 関連 5 団体の「職場・活動紹介」「求人・募集アピール」「Web 講演会」等の動画をウェビナーとして「BOKUJOB Youtube チャンネル」にて生配信するとともに、アーカイブとして牧場就業を目指す者のための情報資源として活用した。

- ・ 日時：① 6月 12 日（土）・13 日（日） 9:00～17:00
② 6月 19 日（土）・20 日（日） 9:00～17:00
- ・ 場所：① 関東サテライト 競走馬育成協会（新橋）及び参加牧場（自宅）
② 北海道サテライト 静内エクリプスホテル（新ひだか町）及び
参加牧場（自宅）
- ・ 方式：ビデオ会議ツール（Zoom）による個別面談（1 面談約 30 分）
- ・ 就業相談希望参加者数：27 名（延べ 139 面談）
- ・ 参加牧場数：24 牧場、4 団体（研修機関等）

2) 担い手育成事業

例年、生産育成調教の牧場で働く意欲ある人々に必要な馬に関する知識と技術を習得させ、牧場就労担い手としての能力を開発し向上させるため、研修機関への修学や海外研修への派遣を援助しているが、令和 3 年度も前年度に引き続き、新型コロナウィルス感染症の影響により、海外研修への派遣については実施を見合わせた。

① 修学奨励金交付事業

BTC が実施する育成調教技術者養成研修の令和 3 年度入講生 5 名、JBBA が実施する生産育成技術者研修の令和 3 年度入講生 1 名、及び公益社団法人日本装削蹄協会が実施する令和 3 年度装蹄師認定講習会入講生 1 名の計 7 名に対して、修学奨励金を交付した。その後、BTC 入講生の 1 名については途中退所となつたため、修学奨励金の返還を受けた。

② 生産育成技術者海外派遣

例年、生産育成技術者養成機関の卒業生を対象とした海外研修や牧場従業員等による長期研修及び短期研修を対象に海外研修への派遣援助をしてきたが、令和 3 年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、全ての海外派遣研修の実施を見合わせた。

4. 軽種馬の育成調教に係わる競争力の向上に対する支援（共益事業）

1) セリ市場の振興

若馬育成調教の成果がセリ市場取引に反映されるように、2歳トレーニングセールへの地域団体による後援等を実施した。

2) 育成調教施設等の整備に対する助成事業

① 軽種馬生産育成強化資金利子補給事業

育成施設の整備等を目的に会員が借り受けた資金の利子負担軽減を図るために、公益財団法人全国競馬・畜産振興会から軽種馬生産育成強化資金を受け、令和 3 年度は新規案件 3 件について利子補給を開始するとともに、継続案件 11 件についても利子補給を実施した。

② 競馬関連機材等有効活用事業

JRA の施設等で使用を取りやめた競馬関連の機器・資材などを有効に活用するため、令和 3 年度は 1 回の抽選会を実施し、ウニモグ 2 台、トラック 2 台、トラクター 1 台、散布車 4 台、散水車 2 台、乗用車 5 台、ハロー類 5 台、馬場柵類 1 セット、発馬機 2 台、その他 1 台の合計 25 件について募集と斡旋を行った。

③ 畜産近代化リース事業

公益財団法人畜産近代化リース協会の行う畜産リース事業について、令和 3 年度は会員からの新規案件の申請はなかった。

5. 軽種馬の育成調教に係わる国際交流（公益事業）

例年、競馬先進国との情報交換を進めるとともに、国内や近隣諸国に対して軽種馬の育成調教技術の指導、普及等を通じて国際交流を推進するため、海外派遣研修等を実施しているが、令和 3 年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、海外派遣研修を止むを得ず取り止めた。また例年、情報交換のため関係団体で構成され JBBA で主催していた連絡協議会が書面による開催に形を変え海外流通促進事業検討会として開催され当協会からも参加した。

6. 軽種馬の育成調教に関する情報発信（公益事業）

軽種馬の飼養管理及び育成調教技術の普及並びに改善向上に役立つ情報を提供するため、令和3年度も機関誌「いくせい」の59号（10月1日付）を発刊した。

また、協会ホームページ等を利用して、育成調教に係わる情報を広く一般の皆様にも閲覧可能な形で発信した。

7. 協会の運営、組織、その他必要な監査等

1) 総会の開催（定時総会）

2月12日 14:00～ 新橋分館4階会議室

Web総会（書面及び通信等を利用して総会の開催要件を満たしたハイブリッド総会）

議案：令和2年度事業報告及び財務諸表について

令和3年度会費等の額及び徴収の方法について

理事および監事の選任について

2) 理事会の開催

① 第1回理事会（定例）（書面決議）

1月15日 提案書の発出

1月25日 決議があったとみなされた日

議案：令和2年度事業報告及び財務諸表について

令和3年度定時総会の開催について（日程、場所、提出議案）

令和3年度総会における議決権行使書及び委任状について

令和3年度業務委託費の配分方法について

公益社団法人競走馬育成協会職員就業規則の一部改正について

② 第2回理事会（臨時）

2月12日 提案書の発出

2月19日 決議があったとみなされた日

議案：会長及び副会長の選任について

公益社団法人競走馬育成協会組織規程の一部改正について

③ 第3回理事会（定例）

12月10日 14:00～ 新橋分館4階会議室

議案：令和4年度事業計画及び収支予算について

④ 臨時書面理事会（定款第41条）

1月26日 入会の承認 1件

2月2日 入会の承認 1件

5月12日 入会の承認 1件

8月27日 入会の承認 1件

11月 11日 入会の承認 1件

12月 23日 入会の承認 1件

3) JRAとの育成等に関する懇談会

10月 1日 13:30~ JRA本部(虎ノ門) 4階 408会議室

懇談内容:セリ市場の動向について

育成牧場における人材確保と養成(BOKUJOB)について

育成等を取り巻く情勢について

その他

4) 協会の組織

① 会員数の動向

	北海道	東北	関東	関西	九州	計	賛助会員
令和2年12月31日	83	10	47	29	18	187	8
増加	1	1	3	1		6	0
減少		2	1			3	0
令和3年12月31日	84	9	49	30	18	190	8

② 役員の動向

令和3年度は役員改選の結果、以下のとおりとなった。

会長理事	栗田晴夫	非常勤
副会長理事	佐藤光信	常勤 常務理事兼務
副会長理事	飯田正剛	非常勤
理事	荻野豊	非常勤
理事	高橋司	非常勤
理事	沖崎誠一郎	非常勤
理事	中内田克二	非常勤
理事	柏木務	非常勤
理事	宮島成郎	非常勤
理事	織田信美	非常勤
監事	五島崇	非常勤

③ 職員等の動向

令和2年12月31日	退任・転出	就任・転入	令和3年12月31日
3名	2名	3名	4名

令和3年度

財務諸表（案）

(令和3年1月1日から12月31日まで)

公益社団法人競走馬育成協会

貸借対照表(案)

令和3年12月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現 金	44,753	49,410	△ 4,657
預 金	58,855,485	52,709,270	6,146,215
未収金	76,393	163,470	△ 87,077
流動資産合計	58,976,631	52,922,150	6,054,481
2 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付等引当資産	3,212,868	2,347,001	865,867
特定預金	9,388,541	23,255,706	△ 13,867,165
特定資産合計	12,601,409	25,602,707	△ 13,001,298
(2) その他固定資産			
什器備品	0	0	0
電話加入権	229,320	229,320	0
その他固定資産合計	229,320	229,320	0
固定資産合計	12,830,729	25,832,027	△ 13,001,298
資産合計	71,807,360	78,754,177	△ 6,946,817
II 負債の部			
1 流動負債			
未払費用	39,550,388	35,586,609	3,963,779
預り金	280,883	114,294	166,589
賞与引当金	86,666	0	86,666
流動負債合計	39,917,937	35,700,903	4,217,034
2 固定負債			
役員退職慰労引当金	2,972,868	2,347,001	625,867
退職給付引当金	240,000	0	240,000
固定負債合計	3,212,868	2,347,001	865,867
負債合計	43,130,805	38,047,904	5,082,901
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
受取補助金等	9,388,541	23,255,706	△ 13,867,165
指定正味財産合計	9,388,541	23,255,706	△ 13,867,165
(うち特定資産への充当額)	(9,388,541)	(23,255,706)	13,867,165
2 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	19,288,014 (0)	17,450,567 (0)	1,837,447 (0)
正味財産合計	28,676,555	40,706,273	△ 12,029,718
負債及び正味財産合計	71,807,360	78,754,177	△ 6,946,817

貸借対照表内訳表(案)

令和3年12月31日現在

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引消去	合計
I 資産の部					
1 流動資産					
現 金	0	0	44,753	0	44,753
預 金	604,770	34,531,960	23,718,755	0	58,855,485
未収金	0	0	76,393	0	76,393
流動資産合計	604,770	34,531,960	23,839,901	0	58,976,631
2 固定資産					
(1) 特定資産					
退職給付等引当資産	1,606,435	1,028,117	578,316	0	3,212,868
特定預金	9,388,541	0	0	0	9,388,541
特定資産合計	10,994,976	1,028,117	578,316	0	12,601,409
(2) その他固定資産					
什器備品	0	0	0	0	0
電話加入権	114,660	73,382	41,278	0	229,320
その他固定資産合計	114,660	73,382	41,278	0	229,320
固定資産合計	11,109,636	1,101,499	619,594	0	12,830,729
資産合計	11,714,406	35,633,459	24,459,495	0	71,807,360
II 負債の部					
1 流動負債					
未払費用	561,437	34,495,231	4,493,720	0	39,550,388
預り金	0	8,996	271,887	0	280,883
賞与引当金	43,333	27,733	15,600	0	86,666
流動負債合計	604,770	34,531,960	4,781,207	0	39,917,937
2 固定負債					
役員退職慰労引当金	1,486,435	951,317	535,116	0	2,972,868
退職給付引当金	120,000	76,800	43,200	0	240,000
固定負債合計	1,606,435	1,028,117	578,316	0	3,212,868
負債合計	2,211,205	35,560,077	5,359,523	0	43,130,805
III 正味財産の部					
1 指定正味財産					
受取補助金等	9,388,541	0	0	0	9,388,541
指定正味財産合計	9,388,541	0	0	0	9,388,541
(うち特定資産への充当額)	(9,388,541)	(0)	(0)	(0)	(9,388,541)
2 一般正味財産					
(うち特定資産への充当額)	114,660	73,382	19,099,972	0	19,288,014
正味財産合計	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
負債及び正味財産合計	9,503,201	73,382	19,099,972	0	28,676,555
	11,714,406	35,633,459	24,459,495	0	71,807,360

正味財産増減計算書(案)

令和3年1月1日～令和3年12月31日

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減額
I一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取入会金	60,000	40,000	20,000
受取入会金	60,000	40,000	20,000
受取会費	5,958,000	5,927,000	31,000
受取会費	5,878,000	5,847,000	31,000
受取賛助会費	80,000	80,000	0
受取補助金等	144,236,958	117,910,662	26,326,296
JRA受取助成金	53,163,270	50,840,976	2,322,294
全競畜振助成金	9,792,621	10,166,628	△ 374,007
NAR受取補助金振替額	81,281,067	56,903,058	24,378,009
特定資産受取利息	46	172	△ 126
特定資産受取利息	46	172	△ 126
雑収益	600,700	570,632	30,068
受取利息	700	632	68
雑収益	600,000	570,000	30,000
経常収益計	150,855,704	124,448,466	26,407,238
(2) 経常費用			
事業費	141,740,352	113,817,655	27,922,697
役員報酬	5,418,626	5,634,122	△ 215,496
給与手当	10,590,196	10,728,909	△ 138,713
社会保険負担	2,571,282	2,526,421	44,861
厚生費	43,762	3,132	40,630
役員退職慰労金	513,211	513,211	0
退職給付費用	196,800	0	196,800
機材有効活用事務費	4,800	4,960	△ 160
育成技術向上推進費	261,685	0	261,685
2歳育成馬トレーニング'セール推進費	0	0	0
育成情報誌発行費	338,775	335,371	3,404
業務委託費	1,048,000	1,048,000	0
育成技術表彰費	26,206,047	22,756,364	3,449,683
物品費	261,770	179,520	82,250
光熱水料費	102,486	121,185	△ 18,699
借損料費	2,049,809	2,023,615	26,194
雑役務費	1,019,469	912,954	106,515
利子補給事業費	9,244,080	9,777,528	△ 533,448
育成技術者海外研修費	0	0	0
修学奨励金	2,206,080	2,683,709	△ 477,629
牧場就業促進費	72,854,729	50,545,165	22,309,564
推進事務費	6,808,745	4,023,489	2,785,256
減価償却費	0	0	0
管理費	7,277,905	8,105,731	△ 827,826
役員報酬	1,189,454	1,236,758	△ 47,304
給与手当	2,324,677	2,355,124	△ 30,447
社会保険負担	564,428	554,580	9,848
厚生費	9,606	687	8,919
役員退職引当繰入	112,656	112,656	0
退職給付費用	43,200	0	43,200
旅費	71,723	197,561	△ 125,838

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減額
交通費	7,240	7,190	50
図書費	153,061	153,061	0
印刷費	44,000	73,700	△ 29,700
通信運搬費	456,144	470,977	△ 14,833
物品費	174,512	119,680	54,832
光熱水料費	43,923	51,937	△ 8,014
消耗品費	76,811	68,522	8,289
借損料費	878,489	867,264	11,225
雑役務費	223,786	200,405	23,381
租税公課	0	0	0
雑費	183,235	132,879	50,356
雑損費	10,000	10,000	0
会議費	710,960	1,492,750	△ 781,790
減価償却費	0	0	0
経常費用計	149,018,257	121,923,386	27,094,871
評価損益等調整前当期経常増減額	1,837,447	2,525,080	△ 687,633
特定資産評価益等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	1,837,447	2,525,080	△ 687,633
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,837,447	2,525,080	△ 687,633
一般正味財産期首残高	17,450,567	14,925,487	2,525,080
一般正味財産期末残高	19,288,014	17,450,567	1,837,447
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金等	67,413,902	66,904,665	509,237
受取補助金	67,413,902	66,904,665	509,237
雑収益	285	232	53
受取利息	285	232	53
雑収益	0	0	0
受取補助金返還益	0	0	0
受取補助金返還金	△ 285	△ 240	△ 45
受取補助金返還損	0	0	0
一般正味財産への振替額	△ 81,281,067	△ 56,903,058	△ 24,378,009
当期指定正味財産増減額	△ 13,867,165	10,001,599	△ 23,868,764
指定正味財産期首残高	23,255,706	13,254,107	10,001,599
指定正味財産期末残高	9,388,541	23,255,706	△ 13,867,165
III 正味財産期末残高	28,676,555	40,706,273	△ 12,029,718

正味財産増減計算書内訳表(案)

令和3年1月1日～令和3年12月31日

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引消去	合計
	公1	他1			
I一般正味財産増減の部					
1 経常増減の部					
(1) 経常収益					
受取入会金	12,900	15,551	31,549	0	60,000
受取入会金	12,900	15,551	31,549	0	60,000
受取会費	1,343,772	1,523,487	3,090,741	0	5,958,000
受取会費	1,263,772	1,523,487	3,090,741	0	5,878,000
受取賛助会費	80,000	0	0	0	80,000
受取補助金等	94,603,672	43,600,978	6,032,308	0	144,236,958
JRA受取助成金	13,322,605	33,808,357	6,032,308	0	53,163,270
全競畜振助成金	0	9,792,621	0	0	9,792,621
NAR受取補助金振替額	81,281,067	0	0	0	81,281,067
特定資産受取利息	0	46	0	0	46
特定資産受取利息	0	46	0	0	46
雑収益	0	600,076	624	0	600,700
受取利息	0	76	624	0	700
雑収益	0	600,000	0	0	600,000
経常収益計	95,960,344	45,740,138	9,155,222	0	150,855,704
(2) 経常費用					
事業費	96,000,214	45,740,138	0	0	141,740,352
役員報酬	3,304,040	2,114,586	0	0	5,418,626
給与手当	6,457,437	4,132,759	0	0	10,590,196
社会保険負担	1,567,855	1,003,427	0	0	2,571,282
厚生費	26,684	17,078	0	0	43,762
役員退職慰労金	312,934	200,277	0	0	513,211
退職給付費用	120,000	76,800	0	0	196,800
機材有効活用事務費	0	4,800	0	0	4,800
育成技術向上推進事業費	261,685	0	0	0	261,685
2歳育成馬トレーニングセール推進費	0	0	0	0	0
育成情報誌発行事業費	338,775	0	0	0	338,775
業務委託費	0	1,048,000	0	0	1,048,000
育成技術表彰事業費	0	26,206,047	0	0	26,206,047
物品費	130,885	130,885	0	0	261,770
光熱水料費	73,204	29,282	0	0	102,486
借損料費	1,464,150	585,659	0	0	2,049,809
雑役務費	621,628	397,841	0	0	1,019,469
利子補給事業費	0	9,244,080	0	0	9,244,080
育成技術者海外研修費	0	0	0	0	0
修学奨励金	2,206,080	0	0	0	2,206,080
牧場就業促進費	72,854,729	0	0	0	72,854,729
推進事務費	6,260,128	548,617	0	0	6,808,745
減価償却費	0	0	0	0	0
管理費	0	0	7,277,905	0	7,277,905
役員報酬	0	0	1,189,454	0	1,189,454
給与手当	0	0	2,324,677	0	2,324,677
社会保険負担	0	0	564,428	0	564,428
厚生費	0	0	9,606	0	9,606
役員退職引当繰入	0	0	112,656	0	112,656
退職給付費用	0	0	43,200	0	43,200
旅費	0	0	71,723	0	71,723

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引消去	合計
	公1	他1			
交通費	0	0	7,240	0	7,240
図書費	0	0	153,061	0	153,061
印刷費	0	0	44,000	0	44,000
通信運搬費	0	0	456,144	0	456,144
物品費	0	0	174,512	0	174,512
光熱水料費	0	0	43,923	0	43,923
消耗品費	0	0	76,811	0	76,811
借損料費	0	0	878,489	0	878,489
雑役務費	0	0	223,786	0	223,786
租税公課	0	0	0	0	0
雑費	0	0	183,235	0	183,235
雑損費	0	0	10,000	0	10,000
会議費	0	0	710,960	0	710,960
減価償却費	0	0	0	0	0
経常費用計	96,000,214	45,740,138	7,277,905	0	149,018,257
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 39,870	0	1,877,317	0	1,837,447
特定資産評価益等					
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 39,870	0	1,877,317	0	1,837,447
2 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 39,870	0	1,877,317	0	1,837,447
一般正味財産期首残高	154,530	73,382	17,222,655	0	17,450,567
一般正味財産期末残高	114,660	73,382	19,099,972	0	19,288,014
II 指定正味財産増減の部					
受取補助金等	67,413,902	0	0	0	67,413,902
受取補助金	67,413,902	0	0	0	67,413,902
雑収益	285	0	0	0	285
受取利息	285	0	0	0	285
雑収益	0	0	0	0	0
受取補助金返還益	0	0	0	0	0
受取補助金返還金	△ 285	0	0	0	△ 285
受取補助金返還損	0	0	0	0	0
一般正味財産への振替額	△ 81,281,067	0	0	0	△ 81,281,067
当期指定正味財産増減額	△ 13,867,165	0	0	0	△ 13,867,165
指定正味財産期首残高	23,255,706	0	0	0	23,255,706
指定正味財産期末残高	9,388,541	0	0	0	9,388,541
III 正味財産期末残高	9,503,201	73,382	19,099,972	0	28,676,555

財務諸表に対する注記

1. 繼続組織の前提に関する注記

該当なし。

2. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却方法について
該当なし。

(2) 引当金の計上基準について

役員退職慰労引当金

役員の退任に伴う退職慰労金の支給に備え、規程に基づく期末要支給額を計上している。

退職給付引当金

職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上している。

なお、退職給付債務は期末自己都合要支給額に基づいて計算している。

賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込み額のうち当期に帰属する額を計上している。

(3) リース取引の処理方法

所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

3. 会計方針の変更

該当なし。

4. 特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
退職給付等引当資産	2,347,001	865,867	0	3,212,868
特定預金	23,255,706	9,388,541	23,255,706	9,388,541
計	25,602,707	10,254,408	23,255,706	12,601,409

5. 特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
特定資産				
退職給付等引当資産	3,212,868	(0)	(0)	(3,212,868)
特定預金	9,388,541	(9,388,541)	(0)	(0)
計	12,601,409	(9,388,541)	0	(3,212,868)

6. 担保に供している資産

該当なし。

7. 補助金等の内訳ならびに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
助成金	日本中央競馬会	0	53,163,270	53,163,270	0	
助成金	(公財)全国競馬・畜産振興会	0	9,792,621	9,792,621	0	
補助事業費	地方競馬全国協会	23,255,706	67,414,187	81,281,352	9,388,541	固定資産
計		23,255,706	130,370,078	144,237,243	9,388,541	

8. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金額
経常収益への振替額	81,281,067
受取補助金等計上による振替額	
計	81,281,067

9. 保証債務等の偶発債務、関連当事者との取引の内容、重要な後発事象

該当なし。

附 屬 明 細 書

1. 特定資産の明細

「財務諸表に対する注記」の「4. 特定資産の増減及びその残高」に記載しているため記載を省略する。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	0	86,666	0	0	86,666
役員退職慰労引当金	2,347,001	625,867	0	0	2,972,868
退職給付引当金	0	240,000	0	0	240,000

財産目録

令和3年12月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金	手元保管	運転資金として	44,753
	預金	普通預金	運転資金として	58,855,485
		三養東京UFJ銀行本店		
	未収金	芝税務署	年末調整による源泉所得税還付金	56,393
			会費未納分	20,000
流動資産合計				58,976,631
(固定資産)				
特定資産	退職給付等引当資産	定期預金	役員退任及び職員退職給付引当金見合の引当資産として管理している。	3,212,868
		三養東京UFJ銀行本店		
	特定預金	普通預金	指定正味財産として公益目的事業の用に供している。	9,388,541
		三養東京UFJ銀行本店		
その他固定資産	電話加入権	3回線	公益目的保有財産であり、公益目的事業及びその他の事業(相互扶助等事業)並びに管理運営の用に供している。 上記のうち、 公益目的保有財産の期末簿価 114,660 その他の事業(相互扶助等事業)及び管理運営の用に供している資産の期末簿価 114,660	229,320
固定資産合計				12,830,729
資産合計				71,807,360
(流動負債)	未払費用	港年金事務所	公益目的事業及びその他の事業(相互扶助等事業)並びに管理運営に供する社会保険料の未払分	133,371
		キャノン販売㈱	公益目的事業及びその他の事業(相互扶助等事業)並びに管理運営に供する諸経費の未払分	30,423
		ニフティ㈱	公益目的事業及びその他の事業(相互扶助等事業)に供する諸経費の未払分	5,536
		富士通クラウドテクノロジーズ㈱	その他の事業(相互扶助等事業)に供する諸経費の未払分	4,180
		㈱共栄経営研究所	公益目的事業及びその他の事業(相互扶助等事業)並びに管理運営に供する諸経費の未払分	250,000
		日本中央競馬会	公益目的事業及びその他の事業(相互扶助等事業)並びに管理運営に供する事務所賃料の未払分	275,704
		社台ファーム他	その他の事業(相互扶助等事業)に供する表彰費の未払分	24,785,000
		北海道銀行早来支店他	その他の事業(相互扶助等事業)に供する利子補給費の未払分	4,564,076
		NTTファイナンス㈱	管理運営の用に供している諸経費の未払分	16,216
		日本中央競馬会	助成金返還分	4,324,730
		(公社)全国競馬・育種振興会	助成金返還分	4,947,379
		㈱トヨタレンタリース	その他の事業(相互扶助等事業)に供する諸経費の未払分	36,724
		㈱マイナビワークス	その他の事業(相互扶助等事業)に供する諸経費の未払分	177,049
			<未払費用計>	39,550,388
	預り金	役職員	社会保険料	280,883
	賞与引当金	職員	公益目的事業及びその他の事業(相互扶助等事業)並びに管理運営業務に従事する職員の賞与引当金	86,666
流動負債合計				39,917,937
(固定負債)	役員退職慰労引当金	役員分	管理運営業務を執行する役員の退任慰労金の引当金	2,972,868
	退職給付引当金	職員分	公益目的事業及びその他の事業(相互扶助等事業)並びに管理運営業務に従事する職員の退職給付金の引当金	240,000
固定負債合計				3,212,868
負債合計				43,130,805
正味財産				28,676,555

監査報告

公益社団法人競走馬育成協会

会長理事 栗田 晴夫 殿

私は、令和3年1月1日から令和3年12月31日までの令和3年度における監査を実施したので、次のとおり報告します。

1 監査の方法の概要

理事会に出席し理事から業務の報告を聴取して、業務執行の妥当性を検討しました。

また、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて貸借対照表、正味財産増減計算書、附属明細書及び財産目録について正確性を検討しました。

2 監査意見

- (1) 事業報告の内容は真実であると認めます。
- (2) 貸借対照表、正味財産増減計算書、附属明細書及び財産目録は、正しく示していると認めます。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

令和4年1月12日

監事 五鳥 崇 